

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月12日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770104855
法人名	社会福祉法人 日下会
事業所名	グループホーム紫苑
所在地	堺市西区草部1458 (電話) 072-272-6460

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 7月 31日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤 8人, 非常勤 11人, 常勤換算 10.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	3,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150円	昼食 550円
	夕食	500円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 6月 10日現在)

利用者人数	16名	男性 3名	女性 13名
要介護1	6名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 64歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森下クリニック、阪和第二泉北病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敬老の日がある秋に、たくさんの小花が集まって存在感をだす「シオン」の花のように、輝いて人生を楽しんでもらいたいという願いのこもったグループホームです。「愛ある施設・心ある介護」をホームの理念として、管理者や職員全員が日々の介護に形として実践しています。利用者一人ひとりにあった支援を職員全員が取り組めることで、利用者の安心した生活になるという施設長の考えは現場に浸透しており、情報の共有にも工夫しています。地域の子どもの下校時に見守り隊を兼ねての散歩や、積極的に外出してもらおう活動が地域の理解につながり、グループホームが地域にとけ込み、地域と共に生活することが当たり前になっています。職員の定着にも配慮し、職員を大切にすることで、より利用者の安心した生活の実現ができています。グループホームでもあります。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回外部評価結果で示された、訪問回数の少ない家族に対する金銭出納帳や介護計画の郵送等、家族への報告については、改善計画をたてて改善しました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で取り組みを行っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町会長・地域包括支援センター職員・利用者・家族等から参加を得て、運営推進会議を開催しています。主な会議内容は、ホームの活動報告、意見交換です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年4回「ペチュニア通信」を作成し、家族に送付しています。面会時には、家族の希望や意見を聞くよう、話し合いの場を設けています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の活動に参加し、日常的な地域とのつながりを大切にしています。幼稚園の芋掘り・公民館の七夕祭りなど行事に参加しています。子ども達の下校時に見守り隊を兼ねての散歩等、積極的に外に出ることで地域の方達と顔なじみになり、自然に地域にとけ込んでいます。近所の方から花をいただくこともあります。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛ある施設・心ある介護」を理念とし、「お一人おひとりの人格を尊重しながら地域の人々との交流をもち、笑顔でいきいきした毎日が送れるよう支援させていただきます」を行動指針に実践しています。地域密着型サービスとして、地域の人々に利用してもらうことを大切にしています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎朝唱和して確認しています。事務所内に理念を掲示し、理念の実現に向けての目標を職員一人ひとりが立てて実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会の行事に参加し、日常的な地域との付き合いを大切にしています。幼稚園の芋掘りや公民館の七夕まつり等にも参加しました。子ども達の下校時に、見守り隊を兼ねた散歩や日々の散歩で地域の方達と顔なじみになっています。地域に出ることで繋がりができ、今では自然に地域にとけ込んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果で示された事項について、改善計画をたてて、改善を行っています。訪問回数の少ない家族に対し、金銭出納帳や介護計画を送付しています。また自己評価は職員全員で取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規程を作成し、町内会代表・地域包括支援センター職員・利用者・家族から参加を得ています。2ヶ月に1回会議を開き、ホームの活動報告、意見交換を行っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課と連携をとりながら事業の運営に取り組んでいます。外部評価に関する市への報告も行っています。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行の「ペチュニア通信」は、ホームでの生活、新人職員の紹介等、写真入りのわかりやすい内容になっており、家族にも送付しています。面会時に金銭出納帳や介護計画について説明し、確認のサインを得ています。訪問回数の少ない家族に対しては介護計画や金銭関係の書類送付し、確認を得られるよう改善しました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、要望や意見を聞くようにしています。運営推進会議には、家族にも参加していただき、意見を聞かせてもらっています。意見箱の設置やアンケートの実施で、家族の声を聞く努力をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を抑えるために、管理者は職員が安心して働ける職場環境づくりを工夫しています。新採用職員には1ヶ月、先輩職員がついてマンツーマンで研修する体制をとっています。また、日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気作りを管理者は配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症」「感染症」「緊急時対応」等を含む研修が実施されています。研修報告書が閲覧できるように掲示され、職員全員に伝達できる工夫を行っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区グループホーム連絡会に月1回参加し、意見交換等を行っています。連絡会では今後、合同の行事の開催や、職員の交換研修を実施する等を予定しており、同業者間での交流を図るようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用のシステムが整備され、利用された事例もあります。利用前には自宅を訪問し、利用者の生活状況の把握に努め、見学の際には本人にも来てもらって、本人が安心して納得された上でサービスを利用できるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者のできること、できないことをできるだけ把握し、食事の盛りつけ・洗濯たたみ、掃除を一緒に行ったりしながら、同じ時間を共に過ごし、共感できる関係を作っています。職員は支援する仕事の中で、人生の先輩として利用者から教えていただいていることに感謝しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望・意見を聞き取り、家族からも情報を得て、日々の支援を行っています。今後は、毎日の支援の中で把握したことや気づきなどを記録として留め、その気づきを職員間で共有していき、より一層利用者の支援に役立てていくことが期待されます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族から思いや意見などを聞きとり、サービス担当者会議で検討し、介護計画を作成しています。家族に対して説明を行い、同意のサインを得ています。訪問回数の少ない家族に対しては介護計画を送付し、同意を得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは通常6ヶ月毎に行われており、状況の変化により随時、ケース検討会議やモニタリングにより見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	グループホームでの生活だから こそできる本人のできること を支援していています。台所では、 食事の準備や後片付けを生き 活きとされている利用者もい ます。また、協力医療機関以外 の受診も行っており、家族の代 わりに受診に付き添うこともあ ります。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られた、かかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	受診状況を把握し、希望する医 療機関で受診できるようになっ ています。母体法人の診療所か らホームドクターとして週1回 の往診があります。診察日は家 族も同席することが可能です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	グループホームでの生活が困難 になった場合は、併設の特別養 護老人ホームに移ってもらう 体制になっており、利用面接時 に本人・家族に説明しています。 ホームで終末を迎えたいと希 望される場合は、意向に沿って 対応していくことになっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規程を定め、職員の採用時には個人情報の秘密保持についての誓約をしています。利用者に対しての言葉遣いは丁寧で相手を尊重した言葉かけや対応を行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわることなく、利用者のペースに合わせた生活リズムを大切に支援するように心がけています。買い物や散歩・外食など、利用者の希望を聞き取り随時対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週4日は母体特養から調理済みの副食が届き、主食はホームで作っています。週3日はホームで主食・副食ともに調理し、利用者も食事作りに参加しています。おやつ作りを楽しむこともあります。利用者と共に、食事の準備や後片付けを行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回ですが、利用者から希望があれば毎日入浴することも可能です。ADL（日常生活動作）が低下している利用者には、職員が2人介助で入浴支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理・洗濯物たたみ等、一人ひとりの得意なことを見つけ、力を発揮してもらっています。家族からの情報で几帳面な性格だった利用者の掃除が日課になり、張り合いのある生活に繋がった例もあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	子ども達の下校時に、見守り隊を兼ねた散歩や日々の散歩、母体特養の敷地内に祀る観音様へのお参り、買い物・喫茶店へ行く等、外出の機会を積極的に作っています。帰宅願望のある利用者に、自宅までついて行き、安心してもらっているケースもあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家庭的な雰囲気損なわないように門扉やホーム玄関などは入りやすくなっています。2階ユニットは入り口から階段に近く、目の不自由な利用者がいらっしやることもあり施錠しています。1階ユニット入り口は、職員の目が届かない時間帯は施錠しています。しかし行事の時は、ユニット間の鍵を開けるようにしました。施錠に関しては、家族・職員にアンケートをとり、運営推進会議や職員会議でも検討しています。	○	鍵をかけないケアの意義を理解し、課題に取り組んでいます。しかし今後も検討を続け、施錠しない時間帯が多くなるような工夫が求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施し、地域での避難訓練にも参加しています。災害対策マニュアルも作成しています。非常用食品の備蓄もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し、把握しています。献立は、同法人の管理栄養士がチェックしたものを提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは全体的に温かみのある落ち着いた雰囲気です。職員は、ホーム内の清潔を自慢できるよう、環境整備に努めています。フロアの一角には畳のコーナーがあり、自由に寝ころぶことができるようになっており、利用者にとってくつろげるスペースです。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、小さな丸い木のテーブルと窓のブラインドの色を合わせた同色の椅子をホームで設置しています。利用者の希望で畳みの部屋で生活することもできます。家族の写真やお気に入りの犬の置物を置く等、本人が安心して穏やかな生活を送るための環境を整えています。		